

第2章-4. 仏教

1. 古代インド哲学

バラモン教……もともとは自然崇拝の宗教。聖典「_____」

賛歌「リグ・ヴェーダ」、祭詞「ヤジュル・ヴェーダ」、呪詞「アタルヴァ・ヴェーダ」など

⇒次第に、祭祀を実行する聖職者を頂点とする身分制度が形成

→ _____ 制度……その4つの基本身分（_____）

① _____（司祭者）、② _____（貴族）

③ _____（庶民）、④ _____（奴隷）

⇒宗教としては形式化

しかしその内部には自然と人間の関係についての深い洞察がある。

//

◆ 「_____（奥義書）」の哲学＝インド哲学の源泉

_____ 因果応報・自業自得
あらゆる生物はその死後、_____（業）にふさわしい姿に生まれ変わり、
生と死は無限に繰り返される→その不安により生は苦しみとなる。

_____ 宇宙の本質（_____、梵）と、個々の生命（_____、我）が
一体であること、を悟れば、_____（苦しみから逃れること）できる。

※ _____ 教……現在のインドの宗教。バラモン教の影響が強く残る。

_____ 神（創造）、_____ 神（維持）、_____ 神（破壊）

※ _____ 六師外道 ……バラモン教を批判し形成された新たな教団を、仏教が批判して命名

_____ 教（開祖ヴァルダマナ、不殺生＝アヒンサーを徹底）も含む。

しかしヒンドゥー教などからは、仏教も異端の六派哲学の1つとして扱われる。

2. 仏教の成立

◎創始者 _____（463～383.BC）

現ネパールのシャカ族の王子→「釈迦牟尼（シャカ族の賢者）」

ブッダ（仏陀）＝“真理に目覚めた者、悟りを開いた者”の意味

_____（一切衆生、生ある者全て）に対して _____（法、真理）を説く
カースト制度批判・真理の前の平等

※ 「ダンマパダ（法句経）」「スッタニパータ」……彼の言葉を簡潔にまとめた初期の経典

「縁起」「四諦」「八正道」「慈悲」などは初期パーリ語経典に見られる。

これに対し「四法印」は大乗仏教によるアレンジ後の教えのようだ。

<縁起と四諦>

▶ _____ ……すべてのことは「縁があって起こる」
万物はたがいに依存しあい変化する → 単独で不変でいられない。

↓

▶ _____ ……仏教の根本である4つの真理、という意味

- ①. _____ ……全てのものは常に変化し、とどまることがない
- ②. _____ ……何ひとつとして「不変の実体（＝我）」を持つものはない
- ③. _____ ……上記のことを悟らなければ、この世の全て苦しみとなる
- ④. _____ ……悟れば、心安らかな境地にいたることができる

//

涅槃（_____）

あらゆる苦悩の原因…… _____（渴愛、＝欲望）に惑わされて
真理に対して無知であること（＝_____）

※三毒……貪（むさぼり）、瞋（怒り）、癡（おろかしさ）

愚かな人間（_____）は、ひとりよがりな考えにとらわれている（＝_____）
そのため、かえって苦の原因を積み重ねている。

_____ ……生・老・病・死

_____ ……四苦の他に

愛別離苦……愛するものと別れる苦しみ

怨憎会苦……憎いものとあわねばならぬ苦しみ

求不得苦……求めるものを得られない苦しみ

五蘊盛苦……物質（色）と精神（識）との間の作用（受・想・行）
が盛んである苦しみ

▶ _____ ①. _____ → → ②. _____
人生は苦悩をまぬがれない 苦悩の原因は煩惱である

↓

④. _____ ← ← ③. _____
そのためには 煩惱を滅し、迷いを離れば
正しい生き方が必要である 苦悩がなくなる

//

▶ _____（中道）

正見・正思・正語・正業・正命・正精進・正念・正定

8つバラバラではなく、「8重に重なったひとつの正しい道」

快樂主義と苦行主義の両極端を否定

3. 仏教思想の展開と大乘仏教

◆原始仏教の教団

出家者 ……その集団＝サンガ（僧迦） ……家族から離れ修行を重ねる。
在家信者……仏陀、ダルマ、サンガの3つを敬いながら日常生活をおくる。
※三宝……聖徳太子「十七条憲法」

◆仏教の2つの理念

- _____ ……世俗を離れ厳しい修行をし悟りを完成させる（その人＝_____）
これを重視する _____ →東南アジアなどに広まる（南伝仏教）
- _____ ……世俗の生活の中で万人のために悟りに基づき _____ を実践する
慈（マイトリー）＝いつくしみ。他者に楽しみを与えること。
悲（カルナー）＝あわれみ。他者の苦しみを取り除くこと。
これを重視する _____ →その中から**大乘仏教**が BC.1c に発生
シルクロードをへて中国・朝鮮・日本へ（北伝仏教）
浄土教・密教は中国で、禪宗も中国で道教と出会って生まれた。

<大乘仏教>

◎ _____（_____、150-250 頃） ……大乘理論の完成者

- ▶ 「_____」の思想……くもりのない知恵の目で事柄の真相を見抜くこと
「苦悩の実体」が存在しているかのように考えがちだが、
そうではなく「悩む心が悩みを育てているのだ」と悟るべきなのだ。

- ・色即是空……「色（物質）」は、縁起により成立した不変の実体を持たない「空」
- ・空即是色……空は単なる空ではなく、様々な要因により「色」として現象する。
→この真理を説く初期の大乘仏教経典の総称「般若経」
その最大のものが「大般若波羅密多経」、最小のものが「般若心経」

- ▶ _____ ……大乘の悟りを求める者（＝慈悲によって衆生を救済せんとする者）
_____ の実践によって、“利他”と“自己の悟り”を完成させる。
布施（ふせ、他人への施し） 持戒（じがい、戒律の遵守）
忍辱（にんじやく、耐え忍ぶ） 精進（しょうじん、修行に励む）
禪定（ぜんじょう、精神統一） 智慧（ちえ、真理を悟る、「般若」ともいう）

波羅蜜……**パーラミター**＝「向こう岸へ至る」の意味

◎ _____（^{むちやく}無著、310-390 頃、兄）、 _____（^{せしん}世親、320-400 頃、弟）
_____ 思想……すべての物事は、心（識）が生み出したものにすぎない

<東アジアの仏教>

中国で仏典漢訳……クマーラジーヴァ（鳩摩羅什）、玄奘。二人とも「三蔵法師」
最初から漢文で書かれた経典も出現

浄土教……中国在来の信仰と融合して広まる
密教 ……インド僧である金剛智・不空から唐僧恵果をへて空海へ
禪宗 ……修行の1つ座禅が中国道家思想と出会って生まれた

<菩薩の種類>

- ・観音菩薩
観世音菩薩（鳩摩羅什の訳）、観自在菩薩（玄奘の訳）
衆生の声を聞き、どこにでも自在にその身を現して救済してくれる
- ・弥勒菩薩（マイトレーヤ）
菩薩行を終えて、現在は兜率天（とそつてん）に住んでいる。
仏陀入滅後、56億7千万年後にこの世に下ってきて仏となり衆生を救う。
- ・地藏菩薩……弥勒菩薩が出現するまでの間、現世を救う
- ・文殊菩薩……仏の智慧をあらわす（梵名マンジュシュリー）
- ・普賢菩薩……仏の慈悲をあらわす

<仏、仏陀、=如来>

- ・大日如来＝毘盧遮那仏（びるしゃなぶつ）
マハーヴァイローチャナ（＝大いなる光り輝く仏）
- ・阿弥陀仏（阿弥陀如来）
無量寿仏、無量光仏（無明の現世をあまねく照らす光の仏）
極楽浄土という仏国土を持ち、特に西方極楽浄土の教主でもある。
かつてインド王族の出身で、法蔵比丘という名の修行者・菩薩であった時、
衆生救済の48の願い（四十八願）を立て、それが達せられないうちは
自分も成仏しない、と誓って修行し、ついに成仏した。
そのうちの第18願が「念仏したものは極楽浄土に往生させる」こと。
- ・薬師如来（薬師瑠璃光如来）
東方浄瑠璃世界（瑠璃光浄土）の教主で、菩薩の時に12の大願を發し、
この世における衆生の疾病を治癒して寿命を延べ、災禍を消去し、衣食
などを満足せしめ、かつ仏行を行じては無上菩提の妙果を証らしめんと
誓い仏と成ったと説かれる。瑠璃光を以て衆生の病苦を救うとされている。
- ・釈迦如来、釈迦牟尼仏
ゴータマ・シッダールタを仏として敬う時の呼び方。
上座部仏教では、現世における唯一の仏とみなされている。
従って、修行者が到達できるのは阿羅漢までで、仏陀にはなれないと考えられた。